第三十七回都々逸全国大会　第二部　どどいつ（作詞）

作品集

第三十七回都々逸全国大会実行委員会

ごあいさつ

第三十七回都々逸全国大会作詞の部にご応募をいただき、誠にありがとうございました。

皆様からお寄せいただきました作品の数々は、都々逸の文化に対する深いご理解とご支援の賜物であり、本大会の大きな財産であります。

都々逸全国大会の開催にあたり、ご協力いただきました関係者各位に心から厚く御礼を申し上げますとともに、都々逸に親しまれる皆様方の、全国的なふれあいの場となりますよう祈念いたしましてごあいさつといたします。

第三十七回都々逸全国大会

大会長　宮田　達夫

目次

一般の部 …… 1
宿題句 …… 3
自由句 …… 11
少年の部 …… 19
総評 …… 24

一般の部

◆宿題句「世」「界」「平」「和」

賞区分	氏名・筆名	住　所
どどいつ大賞	篠　原　美千代	茨城県石岡市
どどいつ準大賞	稲　葉　建　正	茨城県桜川市
	若　色　　茂	茨城県石岡市
	富　山　邦　男	茨城県那珂市
どどいつ賞	福　地　吉　夫	茨城県常陸太田市
	鈴　木　　茂	茨城県常陸大宮市
	石　塚　芳　華	茨城県石岡市
	王　田　佗　介	茨城県笠間市
	滑　川　浩　一	茨城県常陸太田市
	相　原　あやめ	神奈川県横浜市
佳　作	植　田　芙美子	岐阜県養老郡養老町
	一　陽	愛知県岡崎市
	安　藤　紀　楽	東京都世田谷区

◆自由句

賞区分	氏名・筆名	住　所
どどいつ大賞	鈴　木　　勇	茨城県常陸太田市
どどいつ準大賞	澤　渡　延　代	静岡県浜松市
	小川野　　蛙	茨城県石岡市
	相　原　あやめ	神奈川県横浜市
どどいつ賞	福　地　吉　夫	茨城県常陸太田市
	一　陽	愛知県岡崎市
	安　藤　紀　楽	東京都世田谷区
	鈴　木　盛　雄	茨城県常陸太田市
	富　山　邦　男	茨城県那珂市
	久　米　初　枝	東京都台東区
佳　作	王　田　佗　介	茨城県笠間市
	橋　本　よし子	茨城県日立市
	小野寺　紀　夫	茨城県那珂郡東海村

宿題句　お題

「世」「界」「平」「和」

どどいつ大賞

隣り近所は　親戚以上　渡るこの世は　助け合い

評　えなりかずき君の「渡る世間は鬼ばかり」を思い返しています。

茨城県石岡市　篠原　美千代

どどいつ準大賞

元気溌剌　百才翁が　朝の茶碗を　平らげる

評　健啖家（沢山食べる人）こそ長寿の人が多いそうですね。

茨城県桜川市　稲葉　建正

うちの隣に　未来が来たよ　親は平成　子は令和

評　「未来が来た」という表現がいいですね。

茨城県石岡市　若色　茂

昭和平成　令和を生きて　手足伸した　野天風呂

評　「貸切り源泉野天風呂」などと来ると、それだけで出掛けたくなります。川床料理にも舌鼓を打ちたい。

茨城県那珂市　富山　邦男

どどいつ賞

次の時代は　明るく強く　コロナ戦の　無い世界

評　「今」の時代こそ　そうなりましょうよ。

茨城県常陸太田市　福地　吉夫

浮き世恋うた　平和の証　路地の奥なる　花柳界

評　「路地の奥なる　花柳界」とは、何とも懐かしい表現ですね。

茨城県常陸大宮市　鈴木　茂

ラジオ体操　老若男女　集う広場の　この平和

評　健康的な　ラジオから流れる声に励まされますね。

茨城県石岡市　石塚　芳華

被曝少女の　祈りがこもる　世界平和へ　千羽鶴

評　佐々木禎子さん（被爆十年後に白血病で亡くなった人）のことを詠みましたね。

茨城県笠間市　王田　佗介

浪のさかまく　荒磯でさえも　沖を眺めりゃ　波平

評　「サザエさん」なら「波平」は（なみへい）ですが、ここでは「なみたいら」

茨城県常陸太田市　滑川　浩一

戦争知らない　若者たちの　声が平和の　輪をつなぐ

評　いつまでもこうあって欲しいですね。

神奈川県横浜市　相原　あやめ

佳作

早くプーチン　目覚めておくれ　世界平和を　祈る民

評　プーチンにはプーチンの言い分もあるのでしょうが…。

岐阜県養老郡養老町　植田　芙美子

挑む八冠　棋界の寵児（ちょうじ）　じっと吉報　待つファン

評　今や、藤井聡太七冠から皆、目を離すことが出来ません。

愛知県岡崎市　一陽

猫が一匹　どこでもいいが　寝てて平和な　風景画

評　「長閑（のどか）」が欲しい近頃の世相ですね。

東京都世田谷区　安藤　紀楽

粗食美味しく　元気な身体　その日暮らしに　ある平和

茨城県石岡市　助川　浩史

将来(さき)が心配　若者言葉　「ウソ」と「ヤバイ」で　乱れる世

愛知県岡崎市　本多　しげる

喜寿を迎えた　二人の世界　阿吽の呼吸の　穏やかさ

三重県伊勢市　山口　龍一

世界異なる　人間界は　平(たい)らにならぬ　和が足りず

静岡県静岡市　小川　健治

平和ボケとか　揶揄しちゃダメよ　戦さが愚か　極みなの

茨城県水戸市　栗田　修治

お江戸のような　まったり世情　霞む昭和を　懐かしむ

茨城県水戸市　栗原　松枝

友を送った　別離の酒だ　ゆっくり行くぜ　あの世には

茨城県水戸市　小林　丈男

核が支配の　おろかな世界　願う平和の　核廃棄

山口県下関市　亀田　正史

核の廃絶　平和の願い　ひびけ鐘の音　原爆忌

岐阜県安八郡神戸町　早津　郁男

昭和一桁(けた)　平成令和　生きた世の中　謡(うた)に詠む

岐阜県安八郡神戸町　村瀬　昇一

願う広島　なくそう核を　世界平和の　ハト飛ばす

茨城県日立市　佐藤　雅雄

人気役者と　大根役者　どちらも平らな　拍手湧く

東京都中央区　村上　妙

君のお点前　心が和む　和敬清寂　おもてなし

茨城県久慈郡大子町　椎名　秀男

世帯やつれも　貴男と一緒　だから私は　平和なの

茨城県行方市　長谷川　源一

亡母(はは)の言葉に　溢れる涙　世話になったね　ありがとね

茨城県石岡市　福田　泰夫

世界に誇る　サハァイヤダイヤ　居間の置物　自信満ち

東京都江戸川区　高橋　由香

病和(やわ)らげ　気分も和(なご)む　散歩日和(びより)の　ありがたさ

東京都世田谷区　蛯原　清子

じいじの想い出　涼しい夏は　孫の世代の　絵空事

愛知県春日井市　吉福　康郎

浮世(うきよ)　現世(うつしよ)　世迷言(よまいごと)　あなたのそばだけ　別世界(べつせかい)

茨城県水戸市　芝間　靖秋

平和ボケとは　仰せの通り　まさに平和で　ある証

東京都江戸川区　葉山　伯丈

二世を誓った　二人の今を　皺も認める　半世紀

兵庫県多可郡多可町　小風

世界平和は　みんなの願い　皆で輪になれ　綱大(で)かい

岐阜県大垣市　髙野　弘人

隣に和(あわ)せば　見た目は平(たいら)　我他人界(われひとさかい)の　薄れる世

茨城県稲敷郡美浦村　西山　霞天

地球泣かすな　争い止(や)めよ　世界平和の　タクト振る

茨城県常陸太田市　鈴木　盛雄

世界平和を　願って夜空　上る花火の　輪が開く

茨城県笠間市　王田　和子

誘う笑顔は　和解の兆し　夫婦喧嘩の　治め時

茨城県行方市　河野　喜雨

怒って帰れば　和らげようと　しないで俺より　怒る妻

静岡県浜松市　澤渡　延代

我が家自慢は　皆健やかで　子孫八人　三世代

岐阜県中津川市　安江　筍子

笑いなければ　一日長く　平和届いた　孫の声

茨城県ひたちなか市　星野　和代

世界の国へ　どどいつ輸出　ペンの力で　ハイピース

東京都杉並区　佐藤　富貴子

核の無い世で　平和な暮らし　丸い世界を　夢に見る

茨城県常陸太田市　鈴木　勇

世界を照らす　太陽(あかり)のような　丸い心で　ハツラツと

茨城県日立市　橋本　よし子

いつも笑顔で　平気の平左　亡母の口癖　真似てみる

茨城県石岡市　小川野　蛙

浮世様々　人それぞれの　行くは我が道　棘道

東京都台東区　久米　初枝

水素エンジン　世界の宝　救う燃料　無尽蔵

茨城県ひたちなか市　大藪　壽美

豊作信んじ　これまできたが　台風一過　別世界

茨城県那珂郡東海村　小野寺　紀夫

自

由

句

どどいつ大賞

泣いて笑って　四元号を　生きて学びの　読書する

評　大正・昭和・平成・令和。一番お若くても九十九歳。「読書する」が清々(すが)しくて嬉しい。

茨城県常陸太田市　鈴木　勇

どどいつ準大賞

今から切る髪　優しく解いて　一緒に寄付する　いい香り

評　心の優しさが感じられます。

静岡県浜松市　澤渡　延代

月のあかりに　寝息も深く　眠れ世界の　子供たち

評　下の句に情愛がこもっています。

茨城県石岡市　小川野　蛙

親父の記憶は　なんにもないが　産まれた子を抱き　父になる

評　お父上の居ないご苦労が歌の背に描かれています。

神奈川県横浜市　相原　あやめ

どどいつ賞

御国自慢の　秋蕎麦膳に　客を持て成す　郷の味

評　〜信州信濃の新蕎麦よりも　私ゃあなたの傍（そば）がいい　は余りにも有名な都々逸。新蕎麦の時期は年２回、秋蕎麦と、あっさりした夏蕎麦。

茨城県常陸太田市　福地　吉夫

ここが居場所と　葉っぱの裏に　お化け胡瓜が　隠れてた

評　こうした驚きが在るのですね。

愛知県岡崎市　一陽

愚痴もこぼさず　親看てくれた　妻にあげたい　金メダル

評　我が家も、私の実父をよく面倒見て呉れたので、家内に心から感謝している。

東京都世田谷区　安藤　紀楽

個性発揮の　翔平聡太　動と静なる　光る才

評　大谷くんも藤井くんも同時代若者のホープですね。

茨城県常陸太田市　鈴木　盛雄

まづはビールが　お酒になって　本音聞きたい　秋夜長

評　いかにも日本酒好き同士…。

茨城県那珂市　富山　邦男

老いてしみじみ　この世の果てが　日々の暮しへ　見え隠れ

評　「この世の果て」が見える御齢（おとし）になりましたか。

東京都台東区　久米　初枝

佳作

時代かわれど　反骨案山子（かかし）　睨みきかせて　仁王立ち

評　案山子には愛嬌がありますね。

茨城県笠間市　王田　佗介

会いたい想いが　日に日に募る　たった四日の　盂蘭盆会

評　この世では会えないが故（ゆえ）に…。

茨城県日立市　橋本　よし子

親の死に目に　合わずじまいに　夜爪は切らず　おったのに

評　夜は爪を切るなの戒（いまし）めを守ったのに…。

茨城県那珂郡東海村　小野寺　紀夫

唄は都々逸　三味の音合わせ　粋な文句が　心地よい

茨城県石岡市　助川　浩史

草も木も無い　店舗の周り　企業風土に　除草剤

愛知県岡崎市　本多　しげる

待っていました　三年振りの　人出賑やか　宮参り

三重県伊勢市　山口　龍一

核の鉦を　持たせて今日（きょう）は　ここは広島　サミットへ

静岡県静岡市　小川　健治

嫁が出かけに　感謝の言葉　心嬉しい　老の朝

岐阜県養老郡養老町　植田　芙美子

老いさらばへも　抱える大志　獏の餌食に　なるものか

茨城県水戸市　栗田　修治

賃上げ物価　シーソーもどき　頼る年金　伏し拝む

茨城県水戸市　栗原　松枝

峠越したか　コロナの猛威　見えない敵には　御用心

茨城県水戸市　小林　丈男

愛を育む　逢瀬の銀河　闇に二星の　まじわる日

山口県下関市　亀田　正史

夏の京都の　葵の祭り　古式床しく　華ぐ街

岐阜県安八郡神戸町　早津　郁男

世話を掛けずに　ポックリ逝けりゃ　心残りの　無い浮き世

岐阜県安八郡神戸町　村瀬　昇一

君と見ている　海っていいな　想うは昨日と　同じこと

茨城県桜川市　稲葉　建正

昔推してた　かわいい女優　今は貫禄　祖母の役

茨城県石岡市　若色　茂

今日の出来事　短かくまとめ　二十六字の　日記書く

茨城県日立市　佐藤　雅雄

町中神輿だ　水かけられて　気負う氏子の　江戸祭り

東京都中央区　村上　妙

澄んだ湖　手鏡にして　雪のお化粧　逆さ富士

茨城県久慈郡大子町　椎名　秀男

暑さ遠のき　今宵の酒は　コロナ酷暑の　過ぎた月

茨城県行方市　長谷川　源一

世辞と知りつつ　嬉しくなって　世辞で返した　俚謡(うた)の会

茨城県石岡市　福田　泰夫

祭囃子の　聞える夜は　居並らぶ店へ　買うせがみ

東京都江戸川区　高橋　由香

さあという時　和(あ)え物料理　お酢や味噌でも　手間要らず

東京都世田谷区　蛯原　清子

弱い魚と　書かれた鰯　これで何にかと　役に立つ

茨城県常陸大宮市　鈴木　茂

深(ふ)い読みから　自(じ)在の一(い)手　総(そう)取り果たすか　タ(た)イトルを

愛知県春日井市　吉福　康郎

朝のニュースに　和平の文字を　探し世界の　風を読む

茨城県石岡市　石塚　芳華

日本は平和　夫婦はバトル　終戦しても　すぐ開戦

茨城県水戸市　芝間　靖秋

一人で家(うち)飲み　さてカラオケと　持ち歌スマホが　盛り上げる

東京都江戸川区　葉山　伯丈

秘める二人に　不粋なものは　音と灯りと　他人の目

兵庫県多可郡多可町　小風

誇る沢土や　地下熱厚(ちかねつあつ)く　池田山麓　芝桜(しばざくら)

岐阜県大垣市　髙野　弘人

纏(まと)わるその手を　無理やり払い　逃げた最果て　この暑さ

茨城県稲敷郡美浦村　西山　霞天

触らないでと　云いつつ燃えて　恋に弾ける　鳳仙花

茨城県笠間市　王田　和子

母の和服を　眺めていたら　悔いが思わず　口に出る

茨城県行方市　河野　喜雨

謡を一章　余白に書いて　心満たした　恋日記

茨城県石岡市　篠原　美千代

孫のお願い　耳うちされて　腕を振るった　夏休み

茨城県ひたちなか市　星野　和代

角でばったり　夏には内緒　渡す合鍵　それは秋

東京都杉並区　佐藤　富貴子

花や果物　いつでも有って　地球潤す　食く世界

茨城県ひたちなか市　大藪　壽美

＊一般の部作品の記載順は、各賞・選外ごとに申込を受けた順となっております。

少年の部

◆宿題句「世」「界」「平」「和」

賞区分	氏　名	学校名	学　年
どどいつ賞	猿　田　由　依	常陸太田市立世矢中学校	1年
	田　所　花　梨	常陸太田市立瑞竜中学校	1年
	岡　部　詩　穂	常陸太田市立瑞竜中学校	1年
	大　内　咲　奈	常陸太田市立瑞竜中学校	1年
	岡　﨑　紗　良	常陸太田市立瑞竜中学校	3年
	吉　成　隼　士	常陸太田市立金砂郷中学校	3年
	関　根　　麗	常陸太田市立水府中学校	2年
	小　川　　悠	牛久市立牛久第一中学校	2年
	丸　山　弘　人	牛久市立牛久第一中学校	3年

◆自由句

賞区分	氏　名	学校名	学　年
どどいつ賞	松　田　綾　乃	常陸太田市立太田中学校	3年
	高　星　帆　花	常陸太田市立太田中学校	3年
	安　島　希　音	常陸太田市立瑞竜中学校	1年
	矢　部　恵　菜	常陸太田市立瑞竜中学校	2年
	関　　晴　空	常陸太田市立金砂郷中学校	3年
	坂　野　　諒	牛久市立牛久第一中学校	1年
	松　下　　葵	牛久市立牛久第一中学校	3年

宿題句「世」「界」「平」「和」

どんな人にも　やさしくしよう　世界平和を　目標に

常陸太田市立世矢中学校一年　猿田　由依

夢に向かって　つくっていこう　平和な世界　いつまでも

常陸太田市立瑞竜中学校一年　田所　花梨

美しい国　平和の時代　続くようにと　祈る日々

常陸太田市立瑞竜中学校一年　岡部　詩穂

笑顔あふれる　平和な世界　みんなでいつも　願ってる

常陸太田市立瑞竜中学校一年　大内　咲奈

世界平和の　未来に期待　はじめの一歩は　「ありがとう」

常陸太田市立瑞竜中学校三年　岡崎　紗良

武器を捨てよう　豊かな世界　みんな仲よく　暮らそうよ

常陸太田市立金砂郷中学校三年　吉成　隼士

私の宿題　いつ終わるかな　平和な世界を　作ること

常陸太田市立水府中学校二年　関根　麗

きみのなみだが　流れる前に　みなで願おう　平和の世

牛久市立牛久第一中学校二年　小川　悠

一人一人が　考え合って　起こせ行動　世のために

牛久市立牛久第一中学校三年　丸山　弘人

自由句

受験だけれど　シャーペン置いて　本を開けば　主人公

常陸太田市立太田中学校三年　松田　綾乃

雨が上がった　青空見れば　やっと顔出す　虹の橋

常陸太田市立太田中学校三年　高星　帆花

とても暑い日　残りの課題　あせり、取り組む　夏休み

常陸太田市立瑞竜中学校一年　安島　希音

いつも笑って　楽しい気持ち　忘れないよに　未来でも

常陸太田市立瑞竜中学校二年　矢部　恵菜

暑い寒いと　文句を言うも　それが元気の　源だ

常陸太田市立金砂郷中学校三年　関　晴空

叶えたい夢　叶えるために　夢に向かって　つき進む

牛久市立牛久第一中学校一年　坂野　諒

ゆれるスカート　瞳の光　射止められたの　夏の日に

牛久市立牛久第一中学校三年　松下　葵

第三十七回都々逸全国大会　作詞　少年の部

▲みなさんへ▼

・ホームラン王・

アメリカ大リーグ、エンゼルスの大谷翔平選手が44本塁打で、日本人初の本塁打王に輝きましたね。史上初となる2年連続の「2桁勝利・2桁本塁打」も達成。この文を書いている10月3日現在では決まっていませんが、MVP（最優秀選手）の有力候補にもなっています。先輩のイチローさんや松井秀喜さんが辿り着けなかった勲章（2年連続2桁勝利・2桁本塁打）を29歳の大谷選手が掴み取ったことは、君達にも感動を与えたことと思います。スポーツと言葉では世界が違いますし、日本語、ましてや七・七・七・五の都々逸とは比較にならない広さがありますが、大谷君と同世代・同時代に生きていることだけで嬉しい気持になるのも、人の気持というものですね。そうした喜びを詞にしてみる時、曲が付き易そうな都々逸のリズムを2章、並べてみて下さい。自作の新作歌謡曲が出来上がりますよ。（ほぉらね…）

吉　住　義之助

総　評

吉住　義之助

第三十七回都々逸全国大会の御開催、まことに御目出度うございます。

毎回、多くの御関係各位のご尽力により、御地常陸太田市が、偉大なる先達、都々一坊扇歌師の生誕・終焉（しゅうえん）の地であることを誇りとして、盛大な都々逸全国大会を開催の上、この様な立派な作品集の発行をなさっていることに心より敬意を表して居ります。

第三十六回に引き続き、今回も選者にご指名頂いたことを、心より光栄に存じます。

楽しく熱心に選、及び選評をさせて頂くことが出来、まことに有難うございました。

どうぞ皆々様、現代においても歌謡曲、邦楽等の詞の源流である七・七・七・五調、つまり都々逸を、これからも可愛がって育てていって下さい。詞（ことば）に曲付けをして唱う即興の楽しさの詩を、末長く身につけ楽しんでいって下さい。当方も東京・上野で都々逸ペンクラブ「しぐれ吟社」として年10回（8月と12月は休会）毎月第4金曜日の夜に作詞の会を開催して、機関誌『しぐれ』を発行して居りますので、お遊びにお出掛け下さい。

吉住先生プロフィール

昭和十一年（一九三六）東京都に、都々逸作家、しぐれ吟社同人・吉住福次郎、次男として誕生。よって生まれた時から現代都々逸の揺り籃(かご)で育つ。爾(じ)来、台東区（浅草・上野）に在住。八十七歳。母箏曲教授（早世）。
昭和二十八年（一九五三）十七歳より街歌(がいか)しぐれ吟社会員として作家活動を開始。多くの作家や芸能人等と交流。
昭和五十八年（一九八三）しぐれ吟社同人に参画。

◇

都々逸ペンクラブ街歌しぐれ吟社 主宰
日本老友新聞 都々逸欄 選評者
タウン誌「浅草」都々逸欄 選評者（現三百四十二回）
東京湯島天満宮（天神）都々逸之碑護持会 会長
新潟県魚沼市永林寺 都々逸之碑ほか建碑世話人
新作小唄作詞グループ「火星会」同人
東京神田明神小唄作詞作曲家塚 会長
平山蘆江歌碑（東京目黒羅漢寺）護持会 会長
笑文芸集団「有遊会」 会員（二十一代苦笑(くしょう)）
「都歌味会（つかみあい）」（都々逸を作って歌うみんなの会）顧問

◇

【関連出版物】

都々逸ペンクラブ街歌『しぐれ』誌（現七百八十六集発行）・月刊・（年十回・八月と十二月休刊）
義之助歌集『ひとり寝』（長谷川伸 序文）昭和三十五年
杉原残華著『都々逸よしあし』昭和五十九年
しぐれ同人集 街歌『恋しぐれ』昭和六十二年
笑文芸国紳士録『笑笑ごめんなさい』（有遊会編）平成九年
蘆江碑参拝記念『平山蘆江のうたと絵』他 平成二十四年
現代都々逸作歌自選集『あまやどり』（Ⅰ）平成十一年
〃 『あまやどり』（Ⅱ）平成十六年
〃 『あまやどり』（Ⅲ）平成二十四年
〃 『あまやどり』（Ⅳ）令和二年
小野桂之介著『都々逸っていいなあ』（角川書店発行・発売）の監修者

磯部 田んぼの
ぼくれは
風も吹かぬに
氣がもめる
都々逸

第三十七回都々逸全国大会作品集

編　集　第三十七回都々逸全国大会事務局
発行者　第三十七回都々逸全国大会実行委員会
大会長　宮田　達夫
印刷所　木田印房
問い合わせ
第三十七回都々逸全国大会事務局
（常陸太田市教育委員会文化課内）
三一三-〇〇五五
茨城県常陸太田市西二町二二〇〇番地
電話　〇二九四-七二-三二〇一

本書の全部又は一部を無断で複写（コピー）することは、著作権上の例外を除き禁じられています。

主催　第３７回都々逸全国大会実行委員会

協賛　常陽銀行

JA常陸　常陸農業協同組合

明治安田生命保険相互会社

常陸太田産業振興（株）

（一財）里美ふるさと振興公社